

2017年12月

## 日本人とインドネシア人における労働観の比較研究

経営学部 経営学科 山崎佳孝ゼミ  
B4R11072 駒場大輝

### 【卒業論文概要】

日本では少子高齢化に伴う市場規模の縮小や、企業における国際化が加速してきている。その中でもアジアを中心に発展途上国市場の成長が著しい。海外に拠点を置く日本企業が増加している中、特に東南アジアに進出する企業が際立っている。東南アジア諸国はまさに今、マーケットが拡大しており、それに伴い日本からの投資が増加している。本研究では、東南アジア諸国の中で唯一、イスラム国家であり経済成長が持続しているインドネシアに注目した。そこで日本とは異なる社会や文化の国で働く従業員について、仕事へのやる気やモチベーションが日本人とどのように異なるかについて、【日本人とインドネシア人の労働観の違い】というテーマのもと比較研究した。本研究において、具体的に労働観とは（1）仕事のやりがい、（2）忠誠心、（3）退職意識、（4）仕事への満足度、（5）仕事への自信の5つを指す。さらに、本研究では、仕事へのやりがいに影響している要因について探究した。研究調査にあたって、日本の企業であるA社とインドネシアのB社および、B社の関連企業に協力依頼をし、アンケート形式によりデータ収集を実施した。調査対象者数は日本人が398人、インドネシア人が403人、合計801人である。t検定による調査結果は、日本人とインドネシア人では5つの労働観についてすべて有意差が現れた。つまりインドネシア人は日本人よりも、仕事のやりがいを感じ、より多くの忠誠心を持ち、仕事への満足及び自信を持つが、同時に退職意識も高いということが導き出される。次に、重回帰分析の結果として、「仕事へのやりがい」は4つの労働観の「忠誠心」、「仕事への自信」、「仕事への満足度」、「退職意思」により優位に影響があった。この結果から忠誠心、仕事への自信、仕事への満足度を高まれば高まるほど、仕事へのやりがいが増えることが示され、一方、退職意思が下れば下がるほど、仕事へのやりがいも増えるという結果となった。